

平成 28 年 5 月 17 日

各 位

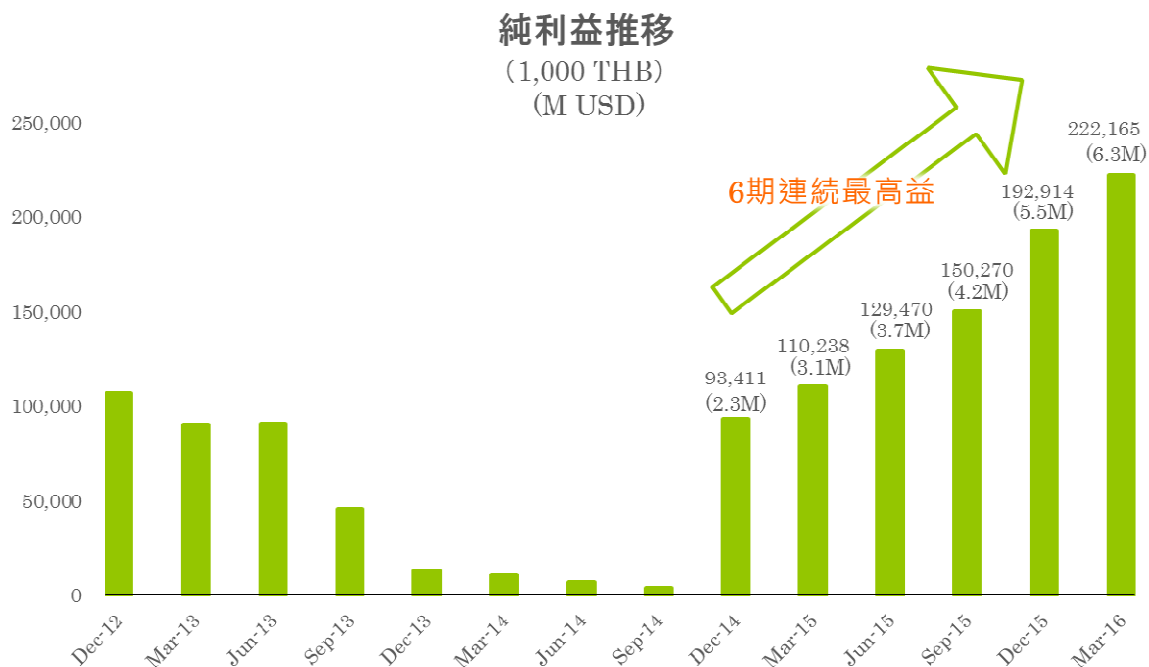
会社名 株式会社ウェッジホールディングス
 代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
 (コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
 問合せ先 開示担当 小竹 康博
 (TEL 03 - 6225 - 2207)

当社子会社 Group Lease PCL. による ASEAN 事業展開資金の調達について

当社子会社の Group Lease PCL. (以下、「GL」という。) は、当社連結子会社を含む全株主を対象として新株予約権 (W4) を発行し、また同時に J トラスト株式会社 (東証 2 部上場証券コード 8508) の子会社 J TRUST ASIA PTE. LTD. (以下「J トラストアジア」という。) に対し転換社債 (CD 2) の発行を予定しております。

当社グループの見解をお知らせいたします。

1. GL 社の現状と極めて高い投資効率 (チャート 1 GL 6 四半期連続最高益)



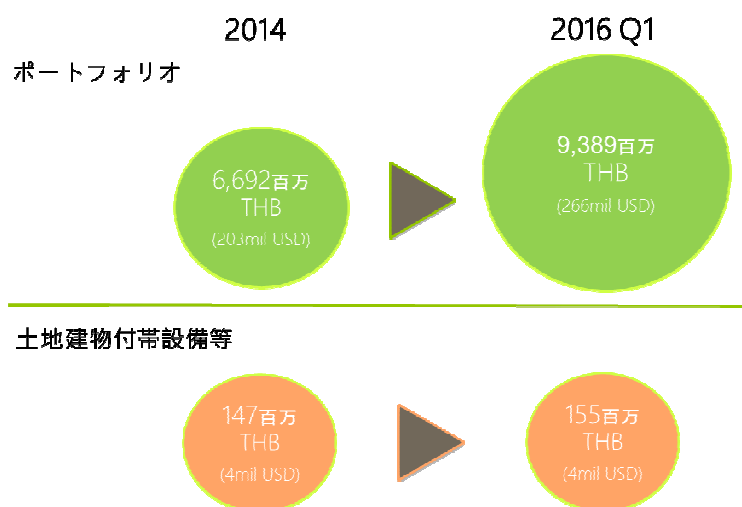
当社の重要なファイナンス子会社である GL は、これまではタイ王国においてオートバイ等のファイナンスに特化しておりましたが、カンボジア王国に同事業を展開させてからは、当社 (GL) グループが独自に開発した IT プラットフォームを活用し、また同国全土に POS 販売ネットワークを構築し、GL の新しいビジネスモデルである「DIGITAL FINANCE」の本格稼働に成功しました。これにより GL は現在 6 四半期連続で過去最高益を更新しており、当社の収益に多大な貢献を続けて拡大しております。

その結果、当社グループが製品販売者の販売網に参加して「モノ」にファイナンスを行うのではなく、新しく製品を投入しようとするメーカーや商社、ディーラーが GL DIGITAL FINANCE PLATFORM を活用及び駆使し、販売やサービスの提供を行う形で事業が拡大しております。

このような流れにより、当社グループは、従来のファイナンス収入に加え、新しい商材の市場開発サービスやコンサルティング関連の収入が増加し、同時に GL DIGITAL FINANCE PLATFORM を利用する販売者やサービスの供給者へのファイナンスも増大してきております。

GLは、タイ王国での事業基盤を盤石なものとし、現在はカンボジア、ラオスにおいて事業が急拡大する時期を迎えております。また、次四半期にはインドネシアでの事業も正式にスタートできる見込みです。さらに、多国展開を進め、各国でも次々に新しい商品やサービスを投入しており事業並びに営業貸付金が急増しております。

(チャート2 ポートフォリオのみに集中した効果的な投資)

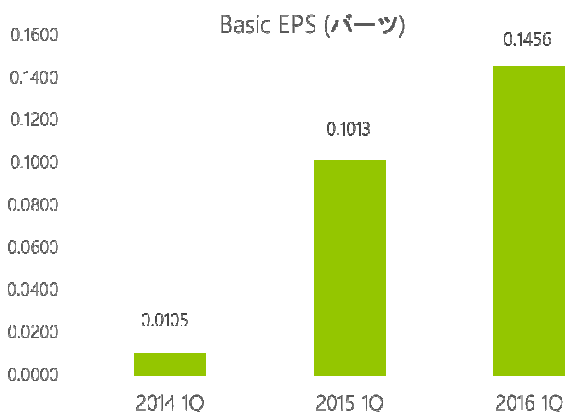


GLはこの1年間(2015年1Qと2016年1Q比較。)でポートフォリオは約40.48%(27億バーツ・約83億円)以上、利益は100%(1億1千万バーツ・約3億5千万円)以上、成長しました。その一方、この間に土地建物などの固定的資産についてはわずか5%(800万バーツ・約2500万円)しか増加しておりません。ファイナンス企業の利益の源泉はポートフォリオにあります。このようにGLは利益の源泉であるポートフォリオに投資を集中できるということが出来ます。他に例を見ない効率的なビジネスモデルが出来上がっていることが見て取れます。

従いまして、GLには大きな成長機会があり、しかも当該増資金は極めて効率的に投下されることを確信しております。

2. 過去の新株予約権発行並びに転換社債発行の結果(参考チャート3)

(チャート3 一株あたり利益は連続して増加)



GL社は2013年12月にGL-W3(W3)と言われる株主割当新株予約権を発行し、2015年5月に転換社債(CD1)を今回と同じくJトラストアジアに対して割当をしております。昨年未までにW3のほぼ全て(当社子会社行使含む)、CD1の全てが株式に転換されております。

上記に述べましたようにGLは極めて高い成長性と効率的な資本投下を実行し、これらの資金獲得は極めて効果的でした。この結果、昨年株式数は1,085,769,632株から1,525,385,251株に増加し40パーセント以上増加しました。これに伴って利益も急増し、2015年と2016年の1-3月期の四半期利益を比較すると101%増加いたしました。

チャート3に明確なように、株式数の増加にも関わらず一株あたり利益は着実に且つ急激に増加しております。いわゆる株式数の増加による希薄化は本質的には一株利益の減少を表すものと当社は考えております。従いまして、過去における当社からも含めた増資は極めて効果的に運用されており、当社への利益貢献も着実に増加しております。いわゆる希薄化は全く起こっておりません。

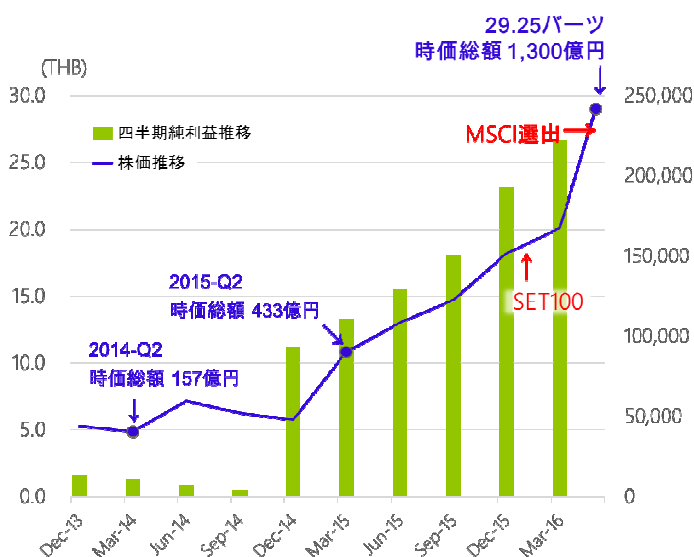
3. 当該獲得資金の使途

現在までに、GLは2011年シンガポール、2012年カンボジア、2015年ラオスに進出して事業を開始しており、タイにおいても2014年に競合他社を買収し、そのノウハウを生かした新規事業を推進しております。また本年にはインドネシア事業が開始いたします。現在これらの新規事業が高い成長性と高い収益性を発揮しております。この中で、タイ王国並びにラオス共和国ではタイパーツによるファイナンスを、カンボジア並びにシンガポールにおいては米ドルによるファイナンスを行っております。

この度はW4によりタイパーツを獲得し、CD2により米ドルを獲得いたします。従いまして基本的に、W4資金はタイパーツ圏、CD2は米ドル圏においてファイナンス資金として活用され、かつ将来の見込み企業買収資金としても活用されます。これにより為替変動リスクがなく、借入利息の低下、各種費用の低下等が見込まれます。

4. W4発行による当社のメリット

(チャート4 GL利益と株価並びに時価総額推移)



当該W4は全株主に対して、9株に対して1予約権を無償で付与するものであり、筆頭株主である当社は最大の受取手となります。当社といたしましてはこの貴重な成長株であるGL社株式を入手出来る有効な機会となります。

過去の例からみても増資払込金は成長資金として効果が極めて高く運用されており、当社は保

有株式数の増加並びに一株あたり利益の増加による当社連結純利益の増加を見込んでおります。

またチャート4に見られますように、GLの株価は、その利益の急成長に伴い上昇し、時価総額が増大しております。今回のW4は行使価格が40パーツと現在の市場価格約28パーツを大きく上回っておりますが、当社はGLの将来性を高く評価しており、株価も行使価格を超えるものと期待しております。W3発行当時も株価は未だ6パーツであり、行使価格は10パーツと大きく超えておりましたが、現在では28パーツとなっており、上昇率は366パーセントを超えております。当社は純資産に、このような含み益を加えた「実質株主純資産」を一つの重要な経営指標と考えておりますが、この度のW4は「実質株主純資産」の上昇に寄与するものと考えております。

5. CD2発行による当社のメリット

CD2はGLのインドネシア並びにASEANでの事業展開における重要なパートナーでありますJトラストグループのシンガポール法人に対して発行されるものです。従いまして、当CD2発行は資金調達を超えて、ASEANビジネスの成長そのものと、そのためのパートナーシップの強化を目指すものです。

当社としては、このビジネスパートナーシップの強化はインドネシア並びにその他の地域での事業展開と企業買収等に大きく寄与するものと期待しております。また、CDの金利は5%と現在のカンボジアでの米ドル調達金利を大幅に下回っており、金利面からも有利な調達になっております。

また今回の発行は転換価格の高さから、新規発行株式数は低い上、過去の例からみても増資払込金は成長資金として効果が極めて高く運用されており、当社はGL純利益、ひいては一株あたり利益の増加による当社連結純利益の増加を見込んでおります。

CD2の転換価格は40パーツと直近価格を大きく超えており、JトラストグループによるGLへの期待と信頼を表しているものでもあり、歓迎しております。

6. 結論

GLはこれまでも当社の利益増、実質株主純資産増などに大きく貢献しておりますことはご周知のことと存じます。また上記に解説いたしましたように、今回のW4、CD2の発行は

- － GLの世界に稀にみる新しいビジネスモデル「Digital Finance」の強い成長可能性を支える資源となり、
 - － これまでの実績から見てGLは収益源であるポートフォリオに集中して投資できる投資効果が高い体質であり、
 - － 常に資金調達がその後の収益上昇、一株あたり利益上昇、株価上昇、をもたらし続けており、
 - － 今回の資金調達自身がGLのコストを減少させる内容になっており、
 - － 当社自身も持ち株数を増加させる
- という内容となっております。

これらのことから、今後のGLの成長のためにも、当社の成長並びに株主価値の向上のためにも、必須と考えており、また心より歓迎するものです。

7. 転換社債及び新株予約権の概要

①新株予約権

(1)発行価格	170,000,000 米ドル(約 187 億円)
(2)割当先	全株主
(3)行使期間	2 年間
(4)行使価格	1 株あたり 40 タイパーツ

(5) 全額行使後の株式数	169,487,250 株(予定)
(6) 調達資金の使途	ファイナンス事業のASEAN全域への事業展開に使用。(詳細は3. 当該獲得資金の使途に記載済み)

②転換社債

(1) 発行価格	130,000,000 米ドル(約 143 億円)
(2) 利率	5%
(3) 償還期間	5 年間
(4) 転換価格	1 株あたり 40 タイバーツ
(5) 調達資金の使途	ファイナンス事業のASEAN全域への事業展開に使用。(詳細は3. 当該獲得資金の使途に記載済み)

8. 割当先の概要

Jトラストアジアは、平成 27 年5月 22 日に転換社債の引受(約 3,541 百万円)を行っており、同社は当該転換社債をGLの普通株式に転換し、現在GLの 6.43%のシェアを保有する株主であります。

調達した資金は、ASEAN事業展開資金に供されております。また、インドネシア共和国での合弁事業を推進するパートナーとしても協業を進めており、既に PT GL Finance Indonesia の設立を完了し、事業認可を待っている状況です。

Jトラストアジア及びJトラストの概要は以下の通りです。

(1) Jトラストアジアの概要

①商号	J TRUST ASIA PTE.LTD
②本店所在地	シンガポール共和国
③代表者の役職・氏名	代表取締役社長 藤澤 信義
④事業内容	投資事業、投資先の経営支援
⑤資本金の額	200 百万シンガポールドル
⑥設立年月日	2013 年 10 月 7 日
⑦大株主及び持株比率	Jトラスト株式会社 100%

(2) Jトラストの概要

①商号	Jトラスト株式会社
②本店所在地	東京都港区虎ノ門一丁目7番12号
③代表者の役職・氏名	代表取締役社長 藤澤 信義
④事業内容	ホールディングス業務
⑤資本金の額	53,592 百万円(2014 年 12 月 31 日現在)
⑥設立年月日	1977 年3月 18 日
⑦大株主及び持株比率	藤澤 信義 25.30%

9. 日程

引受契約締結に係る取締役会決議日	平成 28 年 5 月 17 日
転換社債引受契約の締結	平成 28 年 5 月 31 日(予定)

10. 今後の予定

GLはこれまでも増資等により適宜資金調達を行ってまいりましたが、これらの資金を最大限活用することで、急速に事業を拡大し、純利益を拡大して、一株あたり利益の増加を成功させてきました。そしてこれらの成果が当社の連結純利益増加並びに実質株主純資産増加に寄与してきました。

これからも ASEAN 全域において GL DIGITAL FINANCE PLATFORM の活躍シーンは無限にあり、調達資金以上のリターンを稼ぎ出すことは十分可能だと考えておりますので、当社といたしましても Digital Finance 事業を更に拡大し企業価値向上につなげていきたいと考えております。

尚、現在当社の持つ GL 株式の含み益は 385 億円、実質株主純資産は 662 億円となり、中期経営計画達成並びに中長期的かつ持続的な成長に向けて着実に進んでおります。

株主、投資家の皆様におかれましては何卒ご理解とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

以 上